



会報

第 1797 回例会

11月25日 No.20



相模原中ロータリークラブ

会長 黛 裕治 幹事 櫻内 康裕

- 姉妹クラブ
龍仁ロータリークラブ
国際ロータリー第 3600 地区
- 姉妹クラブ
千曲川ロータリークラブ
国際ロータリー第 2600 地区
- 提唱インターアクトクラブ
光明学園相模原高等学校
インターアクトクラブ



ゲスト卓話「フランス留学生活について」

財団学友 磯部 悠紀子

<自己紹介、奨学金と出会ったきっかけ>

私は 2009 年秋～2011 年秋まで国際親善奨学生として、フランスの最も北にあるリールの大学院に留学しておりました。

まずは簡単に自己紹介ですが、平塚市に生れ、幼稚園から高校までは、藤沢市にある湘南白百合学園で過ごし、大学は渋谷区の聖心女子大学に進学し、哲学科に在籍しながら、緒方貞子さんや皇后美智子妃の所属していたテニス部で 4 年間活動をしました。

卒業後は大学院修士課程に進み、フランス哲学の研究を本格的に始め、中でも「ベルクソン」という、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて

活躍した哲学者の時間や記憶の考え方に興味を持ち、その独自性について修士論文を執筆し、その後は博士課程に進みました。

その頃に留学を意識するようになって、指導教官から先輩を紹介して頂き、この方が国際親善奨学金を知るきっかけになった方です。

2008 年に平塚北 RC からの推薦で選考試験を受験しましたが、当初は補欠合格で、もう望みを断られたのではないかと諦めておりましたが、半年後に正規候補者に 1 名辞退者が出て、補欠が繰り上がることが決まりました。にわかには信じられない思いでしたが、こうして私の国際親善奨学生としての人生がスタートしました。

<留学生活>

留学して、すぐの頃は生活そのものに慣れていないという根本的な問題があり、そのためのカギの1つとなるのが、言葉をどれだけ自然に操れるかということです。日本で語学学校にも通い、ある程度慣れているつもりでしたが、フランス・リールで実際に街に出て驚愕したのは、現地の人と話す速度があまりにも速過ぎることでした。

最初は、まず相手の言うことを理解するのに苦労しました。自分から言葉を発するのは上手なくても、何とか相手に意志を伝えることはできます。ですが、それに対する相手の返答が全く理解できないことほど、致命的で情けないものではありません。日本では難なく解決できることも言葉のせいで一つ一つが壁のように立ちはだかります。役所などの窓口で、相手と顔を合わせて話ができれば、まだ良いとして、これが電話となると一気にハードルが上がります。

ただ、どのような条件であっても現実は何も待ってくれません。初めのうちに片付けなくてはならない手続きがいくつもあり、全てに一人で立ち向かうことが、最初の頃は最も苦しかったと記憶していますが、こうした状況を乗り切ろうとすることで、私の精神力は大いに鍛えられました。

一つの大きな転機は、11月に大学院のゼミで行った研究発表で、ゼミの全体的なテーマは「承認、あるいは再認」というものでした。一人一人が自分の関心に沿ったテキストを選択し、その内容について論文を作成し、発表を行うというものでした。私の場合、自分の研究している哲学と関係のあるテキストを選択でき、内容を関連づけながら論文を作成しました。その結果、担当の先生から高い評価をいただくことができました。

この研究発表が転機になり、これをきっかけに、フランスで生活する自分に初めて自信を持ち、肯定的に捉えることができるようになったからです。

この研究発表までは、上手くいかないことも多く、日本にいた自分が切り離され、土台を失ったような不安定さを感じていました。しかし、日本での研究の蓄積をフランスで活かせることで、私は決して土台を失ってはならず、確実な基礎があるのだと確信を持てるようになりました。

次に地理的なことですが、リールはフランスで最も北にある都市で、人口はフランスでは10番目の規模で、ベルギーとの国境も近く、1時間も電車に乗れば、ドーバー海峡沿いの街へ出られます。



リールは北緯50度で、北海道よりも北で、サハリン辺りの緯度に相当しますが、極寒の地というわけでもなく、海流の影響か、雪もそれ程降りませんし、日中に氷点下ということもありません。

しかしフランス北部は冬の間は晴天が少なく、太平洋沿岸で育った私にはストレスで、それを和らげてくれたのは現地の留学生仲間たちでした。

そして留学生活1年目が終わる2010年夏頃に2つ目の転機が起こります。受入れRCとの間にある種のコミュニケーション・ギャップが存在していることに気づいたのです。今から思えば、フランス人と日本人との考え方の違いによるものだと理解できますが、当時はどうしたら解消されるのかが判らず、途方に迷いました。

このようなギャップは、あらゆる場面で起こり得ますし、あらゆる事柄に当てはまります。そして自分なりに出した答えは、相手には全く伝わっていないのでないかということでした。知識として、頭で判っていても、実際に自分がその状況に置かれてみなければ、本当の意味では理解できなかったことだったと思います。

留学2年目の課題は、修士論文を完成して提出し、2年間の集大成となる卓話を行うことでした。

こうして論文に取り組み始めた3月に、日本から大震災のニュースが飛び込んできました。もはや論文どころではなく、何がどうなっているのか掴めない状態で、インターネットを介して、日本の状況を注視する日々が続きました。

この災害で私が強く感じたのは、母国の存在の大きさです。世界有数の安全な国で、戦争も全く知らない世代として、日本がそこにあるのは当たり前で、深く考えたことはありません。しかし、震災の報に接してから、自分の一部が失われたような感覚に囚われ、母国・日本がいかに大きな位置を占めていたか、その存在の有難さをいかに無条件で享受していたかを知ることとなりました。

震災後の卓話では、日本人としての自分を鼓舞する思いを込めて全力で行い、参加した方々が真剣に耳を傾けて下さり、大変嬉しく思いました。

その後、論文を提出し、無事合格して修士学位を取得し、受入クラブのイベントにも参加したりして、10月半ばに帰国しました。

<帰国後>

2011年10月に帰国後は、多くの後輩がゆくゆくは国境を超えて、活動する人材に育っていくことを期待しつつ、自身の留学体験を学生に語る場を設けて頂いたり、2012年には聖心女子大学院博士課程に復学し、2014年3月には正式に博士号の学位を取得しました。

また、大学内の機関であるキリスト教文化研究所に勤務して2年目となります。自分の研究とは直接関係のない仕事もありますが、まもなく大学で教える立場になる者として、日々の業務を通して経験を積んでおり、あと1年は勤務予定です。

本日は、留学体験談を中心にお話させて頂きましたが、こうした多くの貴重な体験もロータリー財団のご支援のお陰で、改めて感謝申し上げます。

今後は留学中の経験を糧に、更なる国際貢献の波を起こしていけたらと考えております。ありがとうございました。（紙面上、一部略にて掲載）



●鈴木 賢一君（相模原東RC）
本日はお世話になります。宜しくお願いします。

●黛会長、櫻内幹事

①本日は財団月間につき、財団学友の磯部さん、卓話をよろしくお願ひします。

②お祝の皆さん、おめでとうござひます。

●甲斐 美利会員、江成 利夫会員

①財団学友の磯部さん、ようこそ。よろしくお願ひ致します。

②入会記念日祝の松尾会員おめでとうござひます。

●永保 固紀会員

寒くなりました。風邪などに注意して下さい。本日、バッジを忘れまして。

●瀬戸 裕昭会員

①財団学友の磯部さん、ようこそ。本日の卓話、楽しみにしております。宜しくお願ひします。

②入会記念日祝の松尾会員おめでとうござひます。

●菊地 啓之会員

①財団学友、磯部悠紀子さん、本日の卓話ご苦労様です。

②入会記念日祝の松尾会員おめでとうござひます。

●伊倉 正光会員

財団学友の磯部様、本日の卓話ご苦労様です。よろしくお願ひ致します。

●阿部 毅会員

①ゲスト卓話の財団学友、磯部さん、本日の留学体験の卓話ご苦労様です。楽しみです。

②松尾会員、入会記念日のお祝を申し上げます。

●最住 悦子会員

ゲスト卓話の磯部さん、お話楽しみにしています。

●田後 隆二会員

①ゲスト卓話の磯部さん、宜しくお願ひします。

②松尾さん、入会記念日祝おめでとうござひます。

●豊岡 淳会員

①本日、ゲスト卓話でお越しの財団学友の磯部悠紀子様、よろしくお願ひします。

②11月入会記念日祝の松尾さん、おめでとうござひます。

●佐々木 敏尚会員

①本日、入会記念日祝の松尾さん、おめでとうござひます。

②ゲスト卓話の磯部さん、宜しくお願ひします。

本日のスマイル額 14,000円

今年度の累計額 417,737円

会長の時間



あいにくの雨で寒い一日ですので、皆様も体調にはお気をつけ下さい。本日は先週 18 日に行われた「会長幹事会」について報告致します。

○ロータリーデーの清掃活動が決定。

2月22日(日)10~13時頃。駅周辺のクリーンキャンペーンの実施。当クラブはJR相模原駅で、相模原・グリーン・柴胡の4クラブで行い、他に相模大野駅(南・西・大野RC)と、橋本駅(津久井・津久井中央・東)で行います。

○ロータリー1分間スピーチの依頼。

各クラブより3名位応募頂きたいとのこと。

○2015~16年度青少年交換学生が決定。

当グループからは、相模原柴胡RC会員の息子さんが合格され、ブラジルに派遣予定。

○高校生奨学金の件

2名(弥栄高校、上溝高校)を申請予定。負担金は、クラブ人头割で1人430円程度。

○会員増強・SAKUJI 作戦の登録依頼。

他の地域で、ロータリアンにふさわしい友人や知人がいたら、紹介するシステムです。

○次年度地区補助金の件

現在、申請予定は相模原、西、中の3クラブが検討中。今回は申請数が少ないので、チャンスのおようです。(概要にて掲載)

●事務局 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
相模原商工会館3F
TEL 042-758-5750 FAX 042-758-1605

●例会場 相模原市民会館「けやきの間」
〒252-0239 相模原市中央区中央3-13-15
TEL 042-752-4710 FAX 042-753-2000

●E-mail: rotary@tbgt-com.ne.jp

<11月のお祝-入会記念日祝>

・松尾 秋夫会員 1984年11月6日

報告事項

1. 第2780地区ガバナー事務所より ありません
2. 国際ロータリー日本事務局より、ロータリーレート変更のおしらせ。

12月より 1ドル=112円(現行106円)

例会プログラム

- 12月 2日年次総会「次年度理事役員の発表と承認」 担当:会長、指名委員長
定例理事役員会

9日卓話 早川 正彦会員

16日→20日(土)移動例会「年末家族会」

18:30~点鐘・例会

18:50頃~20:30 パーティー

「ラポール千寿閣」にて

②③日祝日休会

例会記録

点 鐘 12時30分

場 所 相模原市民会館「けやきの間」

司 会 甲斐 美利 SAA

斉 唱 ロータリーソング

「それでこそロータリー」

ソングリーダー 荻原 利彦会員

ゲスト 磯部 悠紀子さん(財団学友)

ビジター 鈴木 賢一君(相模原東RC)

出席報告

| 会 員 | 出席(出席対象19名) | 事前メイク者 |
|-----|-------------|--------------|
| 28名 | 21名 | 2名 |
| 欠席者 | 本日の出席率 | 修正出席率(11/11) |
| 2名 | 92.0% | 100% |

●例会日 毎週火曜日 12:30~13:30

●編 集(親睦活動委員会)

委員長 荻原 利彦

副委員長 伊倉 正光

委 員 佐々木裕、神田達治、松尾秋夫、田所毅
金沢邦光、阿部毅、横溝志華、早川正彦

●<http://sagamihara-naka.sakura.ne.jp>